

北陸における産業貨物の航空輸送状況

国内航空貨物輸送を中心に

財団法人 北陸経済研究所 1999年8月

近年、生産活動のボーダーレス化の進展や、消費者ニーズの多様化・個性化、物流管理システムの情報化等、物流を取り巻く環境は大きく変化している。このような環境変化は、物流にスピードと正確性を強く求めるようになり、国際物流面にとどまらず、国内物流面においても航空貨物輸送がその活躍の場を広げている。

北陸にあっては、能登地域の浮上を図るため、長年の懸案であった能登空港の建設が、平成10年11月に平成15年度の完成を目指して着工をみており、その活性化策の一環として地域の産品を大都市圏の市場に空輸するフライト産業も視野におかれている。

そこで、本稿では近年の物流環境の変化と航空貨物

の関係を国内輸送に焦点をあて、小松空港、富山空港の両空港における最近の航空貨物輸送の動向を考察し、併せて空港と地域振興とのかかわりを産業貨物や地域の特産品などの航空輸送の一側面から探ってみた。

1. わが国における国内航空貨物輸送の現状

(1) わが国における国内航空貨物輸送の概況

平成9年の国内航空輸送トン数は85万5,914トン、輸送トンキロでは8億26百万トンキロであった。10年前の昭和62年にはそれぞれ55万6,252トン、5億11百万トンキロであったから、10年前に比べておのおの1.5倍、1.6倍になっている(表1)。表2に

表1 国内航空貨物数量の推移

	輸送重量合計(トン)								輸送トンキロ合計 (千トンキロ)	
	前年比(%)		うち幹線(トン)			うちローカル線(トン)				
	前年比(%)	構成比(%)	前年比(%)	構成比(%)	前年比(%)	構成比(%)	前年比(%)			
昭和62年	556,252	11.9	392,799	11.6	70.6	163,453	12.8	29.4	510,795	11.9
平成7年	788,261	9.5	491,115	5.4	62.3	297,147	16.9	37.7	757,944	9.6
平成8年	819,913	4.0	504,315	2.7	61.5	315,598	6.2	38.5	788,491	4.0
平成9年	855,914	4.4	519,848	3.1	60.7	336,066	6.5	39.3	825,503	4.7
平成9年/昭和62年 (倍)	1.54		1.32			2.06			1.62	

資料：運輸省運輸政策局「航空輸送統計年報」

表2 輸送機関別国内貨物輸送量

	鉄道		自動車		内航海運		航空(注2)		合計	
	(JR)	前年度比(%)	(特種み(注1))	前年度比(%)	前年度比(%)	前年度比(%)	前年度比(%)	前年度比(%)		
昭和62年	55,294	6.4	6,545	10.1	462,546	5.0	698	15.9	525,083	3.7
平成6年	52,753	0.8	7,286	5.1	555,764	5.1	910	5.9	616,713	4.6
平成7年	51,456	2.5	7,428	1.9	548,542	1.3	960	5.5	608,386	1.4
平成8年	49,185	4.4	7,653	3.0	546,909	0.3	1,002	4.4	604,749	0.6
平成8年/昭和62年 (倍)	0.89		1.17		1.18		1.44		1.15	

出所：陸運統計要覧

(注) 1. 特種みは「特別積み合せトラック」の略であり、長距離輸送を主体としている。

2. 国内航空の輸送量には、超過手荷物・郵便物を含む